

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東浦和中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	授業だけでなく、日ごろの学習習慣の定着は大きな課題である。より学習意欲を高めるための学習支援について、個別最適な学びが行えるような教材研究を各教科で行っていく必要がある。また、カリマネデザインマップの活用を通して、教科を横断した学習の道筋を立てていくことともに、「分かる・できる」喜びを味わわせることで次の学習への意欲が高まることも多いので、生徒一人ひとりに寄り添った学習支援を行ってきたい。
思考・判断・表現	今年度と同様、自分たちの考えを根拠に基づいてまとめ発表するという機会を、全ての教科で実践させていきたい。自分で表現することでより理解が深まったり、自分自身の考えがより深まることある。主体的・対話的で深い学びが実現されるような教材研究を、各教科で行ってきたい。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	【学習上の課題】 全ての教科における基礎的・基本的な内容のさらなる定着、学習意欲の向上と学習習慣の定着 【指導上の課題】 問題演習や小テストなどの実施およびそれらの結果を分析し授業改善に反映させること	⇒ ICT等を活用し、継続的に問題演習や単元テスト等を繰り返し、定着を図る。それと同時に、生徒の学習意欲を向上させるため、生徒の勉強量が可視化できる「外発的動機づけ」の取組みを行い、そこで積み重なった内容を分析し、生徒の学習計画がより具体的な一助となるようにすることで、この取組みが生徒の学習に対する「内発的動機づけ」となるように促している。【通年・単元ごと】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 文章やグラフなどのデータを踏まえ、自分の考えたことを自分の言葉で表現すること 【指導上の課題】 自分の考えたことを自分の言葉で表現する機会を多く確保すること	⇒ 自分たちが考えるべき課題を見つけ、解決するために必要な資料、データを探し、それらを活用して自分の考えを自分の言葉で表現する機会を、各教科の単元のまとめの時間や、STEAMS TIMEの時間で取り入れる。【通年・単元ごと】

全国学力・学習状況調査
<小6・中3> (4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	生徒の学習意欲向上のための「外発的動機づけ」の取組を行ってきた。テスト期間などでの取組状況を見ると、積極的に取り組んでいる生徒には効果が出ていると感じられるが、テスト期間外でも同様に学習に対する姿勢が高まったとは言えなかった。
思考・判断・表現	A	自分たちの考えを根拠に基づいてまとめ発表するという機会を各教科やSTEAMS TIMEで行ってきた。さいたま市学習状況調査でも、思考・判断・表現の数値は知識・技能よりも高い数値だった教科が多かった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の平均正答率は、全国及びさいたま市の数値を上回っている。数学の平均正答率は、全国の数値を上回っている一方で、さいたま市の数値はやや下回っている。また理科の平均正答率は、全国の数値をやや上回っているが、問題によっては下回っているものもある。特に、生物分野の内容に苦手意識があると考えられる。
思考・判断・表現	国語、数学、理科の平均正答率は、全国の数値を上回っている。特に国語では、読むことに関する正答率は全国及びさいたま市の数値を大きく上回っている。また書くことに関しては全国の数値をやや上回っている一方で、さいたま市の数値をやや下回っている。書くことは今後の課題として捉えていきたい。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	「〇〇の勉強は好きか」という項目について、全教科で肯定的な回答が市平均を上回っている。その一方で、知識・技能の数値は市平均に比べあまり高くない。個別最適な授業改善と併せ、家庭での学習の充実を実現させるために、各教科で結果のデータ収集を図り、授業に反映させていく必要がある。
思考・判断・表現	知識・技能と同様、市平均と比べると数値はあまり高くないが、数学や社会、理科では、知識・技能よりも高い数値が出ている学年もある。各教科の授業において、思考・判断・表現を力高めるための教材研究を行っていることが結果に反映されていると考えられるが、より高い数値を出すためには、知識・技能の向上が必要不可欠である。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	「外発的動機づけ」の取組により、生徒の学習に対する意欲が可視化されるようになり、特に定期テスト期間における生徒の学習に取り組む姿勢は高まってきている。一方で、テスト期間外の学習に取り組む姿勢はあまり向上してはおらず、現状では学習に対する「内発的動機づけ」には達していない状況である。	変更なし
思考・判断・表現	A	各教科で単元ごとにまとめの時間を設けていたり、1単位時間の授業の中で、自分の考えを自分の言葉で表現させる取組を行ったりしている。生徒自身が「考える」機会がとでも増えている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東浦和中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	授業の初めに前時の復習を行い、終わりには授業の振り返りを行うという流れはすべての教科で必ず行うよう、これまでと同様に進めていく。また、問題演習や単元テストも継続して行っていく。加えて、学習習慣のさらなる確立を課題とし、基礎的・基本的な知識・技能を定着させるために、くりかえし学習をしていく機会をつくっていく必要がある。そのためにも、日々の生活の中でICTを活用した問題演習や家庭学習などを、家庭とも連携して進めていきたい。
思考・判断・表現	それぞれの教科の授業において、小集団でのグループ活動を意図的に設定し、多様な考えに触れる機会と自分の考えを表現する機会を増やしていく。そのためのツールとしてのICTを有効的に活用できるような学習活動を進めていく。また、授業の終わりには授業の振り返りを自分の言葉でまとめる時間を確保し、自分の考えを言語化できるような能力を育てていきたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 全ての教科における基礎的・基本的な内容のさらなる定着 【指導上の課題】 問題演習や小テストなどの実施およびそれらの結果を分析し授業改善に反映させること	⇒ ICT等を活用し、継続的に問題演習や単元テスト等を繰り返し、定着を図る。それと同時に、教科横断的な視点を身に付けられる活動を授業に取り入れ、実践する【さいたま市学習状況調査の自校結果において、「知識・技能」の観点の正答率が市平均を上回る】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 文章やグラフなどのデータを踏まえ、自分の考えたことを自分の言葉で表現すること 【指導上の課題】 自分の考えたことを自分の言葉で表現する機会を多く確保すること	⇒ 自分たちが考えるべき課題を見つけ、解決するために必要な資料、データを探し、それらを活用して自分の考えを自分の言葉で表現する機会を、各教科の単元のまとめの時間や、STEAMS TIMEの時間で取り入れる。【さいたま市学習状況調査の自校結果において、「思考・判断・表現」の観点の正答率が市平均を上回る】

全国学力・学習状況調査
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	各教科で問題演習や単元テストを実施し、定期テストの前後ではテスト勉強の計画作成と振り返りの時間を確保した。昨年度以上に各教科で効果測定を行う場面が増え、生徒も繰り返し行うことで自身の課題を認識することにもつながっていると考えられる。
思考・判断・表現	B	各教科で、自分の考えを自分の言葉でまとめ、表現する機会を設けている。少しずつ定着してきた部分もみられるが、全体的に苦手意識を取り除けていない。また、自分の意見を相手に伝え、相手の意見を踏まえて自分の考えを深めるという機会は少しずつ増えてきている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	全国平均に対して、国語と数学はやや上回っており、概ね良好であった。
思考・判断・表現	全国平均に対して、数学ではやや上回っており、概ね良好だった。一方で、国語では、「A 話すこと・聞くこと」「C 読むこと」はそれぞれやや上回っていたが、「B 書くこと」ではやや下回っていた。自らの伝えたいことや表現したいことを言語化して表現することに課題があると考えられる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語と数学は市平均をやや上回る結果となり、それぞれ無解答率も市平均と比べ低い傾向にある。また、中2の国語と社会は、昨年度の中1の結果以上に市平均を上回っており、基礎的な知識・技能の定着ははじめていることがわかる。
思考・判断・表現	数学は市平均を上回る結果となった。その一方で、全体的に知識・技能よりも市平均を上回っていないかったり、上回っていてもその値が僅差であったりする傾向にあることから、身に付けた知識・技能をどのようにして生かしていくかという、思考・判断・表現に課題がみられる。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	ICT等の活用に関する校内研修を実施し、ICTを活用した問題演習や単元テストを実施する機会を増やすことで、それらの結果を授業改善に反映させることができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	各授業で、授業の内容や課題に対しての自分の考えを自分の言葉でまとめる機会を取り入れている。全国学力・学習状況調査の結果において、国語の「B 書くこと」が全国平均をやや下回っていることから、継続して取り組んでいく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)